

江古田小校長室便り 「温故創新」

H30(2018)・0210 NO90

校長 伊波喜一

SFも 想像つかぬ 伸びさかり 生きる力の 不思議なるかな

2千倍！と聞くと、皆さんはどんなことを想像するでしょうか？

これは体の大きさを表したものです。受胎した時の赤ちゃんの大きさは、僅か0.25mmです。肉眼では見分けが付きません。それが母胎から生まれ出る時には、57cmにもなっています。2千倍の成長です。心拍数も120～140拍で、これは成人の2倍の速さです。歩く代わりに走っているようなものです。産声も、赤ちゃんがこの世に生を受けてから成し遂げたことです。胎盤の中には羊水があるので、肺の中には液体が入っています。生まれたての赤ちゃんの肺はぺちゃんこになっているので、すぐに膨らませなければ息が出来ません。産声によって、赤ちゃんは肺に空気を入れて、しっかり肺呼吸をすることが出来ます。嘗々と続いてきたヒトの歩みは、その誕生からして大きな可能性を秘めています。9日に開幕した平昌五輪では、限界の壁に挑む極限の闘いが繰り広げられます。アスリート達の姿に感動を覚えるのは、**限界と言う己心の壁に挑む彼らの姿が、ヒトの生きようとする力を鼓舞するからではないでしょうか。**